

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第751号 平成26年6月12日

反面教師

6月というのは、旧暦では「水無月」といいます。「水無月」のいわれは諸説あるようですが、このところの暑さに早くもうんざりしている身としては、「梅雨が明け、水が枯れてなくなる月」という説がぴったりのように感じます。

外はぎらつくような暑さ、オフィスの中は冷房の効きが良くないという訳で、何となく疲れが取れない感じがします。今からこんなでは、本格的な夏が到来したら一体どうなる事でしょうか。

さて、今年の4月に社会人となった新入社員の皆さんは2か月余りが経過しましたが、どのような日々を過ごしているのでしょうか。

明るい職場で、上司や先輩にも恵まれ生き活きと仕事をしている人が多い事と思います。それとも、まだ緊張感が解れず、とにかく与えられた仕事をこなす事で精いっぱいという人もいるかも知れませんね。

中には、自分の思い描いていた仕事とのギャップやいじめ等で早くも悩んでいる人、厳しい（というより性格的にかなり変わっている）上司の下で苦勞している人もいると思います。夢を持って入社したのに、そこはブラック企業だったというのでは、とてもそこまで頑張れとはいえません。

全ての職場が、若い方々にとって理想通りという訳にはいきませんが、喜びと生きがいを持って働ける職場である事を願っています。

「石の上にも3年」という言葉がありますが、昔は良く「辛い事や苦しい事があっても、まず3年は石にかじりついて頑張るように」といわれたものです。

最近は、ブラック企業の存在やパワハラ・セクハラの問題もあり、単純に3年は頑張るようにとはいえません。とはいえ、まずは3か月頑張る事が大事で、その先に1年があり、更に3年があると思います。

私は長い事サラリーマン生活を続けて来ており、今もサラリーマンの延長のような生活をしています。こうしたサラリーマン生活を振り返って見ると、私は幸いにも人に恵まれていたなと実感しています。中には、「自分はそのようにはならないぞ」と思うような上司や先輩にも出会いましたが、それは少数派で、多くの力のある上司、面倒見の良い先輩、信頼できる同僚や後輩等との関わりの中で仕事が出来た事に感謝しています。

会社という組織の中で仕事をする以上、人との関わりを忌避する事は出来ません。

もっといえば、社会の一員である以上、人との関わりなしに生きて行く事は不可能です。

人間関係は、正直煩わしいものです。その一番の理由は、マイペースでは済まないという事にあります。事の大小はともかく、何らかの自己犠牲なしに、人間関係を円滑にこなす事は不可能だといって良いと思います。勿論、中には自己中心的に振る舞って悪びれない人がいます。周りの人がそれを受け入れているように見えるのは、まともに相手にするのが面倒だからではないでしょうか。そんな自己中心的な人が一人でもいる職場が生き生きしている筈はありませんが、仮に、その「ジコチュウ」が上司だったら最悪ですね。だからといって、大抵は会社を辞める訳にはいかず、仕方なしに従っているケースが多いと思います。

そんな職場に配属されてしまった新人社員としては、どうしたら良いのでしょうか。

上司と目を合わさないように机にかじりついている訳には行きません。一つの解決方法は、「何時までもこの上司がいる訳ではない。暫くの辛抱」と思って、耐える。

もう一つは、そんな上司を反面教師として、観察する事でしょう。学ぶ材料として上司を見ている内に、心に余裕も生まれて来ると思います。

札幌大谷大学社会学部の平岡祥孝教授は、北海道新聞に水曜コラム（異論・暴論・青論）を書いておられますが、4月16日の水曜コラムで「反面教師もいるけれど」という一文を掲載しています。

この中で、平岡教授は、独断と偏見といいつつも、ご遠慮願いたいタイプの上司を次の様に紹介しています。

- ハリネズミ上司

自己保身に走る事が信条だそうです。

- ハイエナ上司

部下の成果を横取りする上司は、情けない。

- イナバウア上司

居丈高な態度がご立派な上司だそうです。

- ピーマン上司

中身が空っぽの上司はいやですね。

- 深海魚上司

何を考えているのかさっぱりわからない人って必ずいますよね。

- メリーゴーランド上司

些末な事を延々と話す上司の事らしいのですが、こんな上司がいたらさぞかし仕事の邪魔ですね。

こんな風に並べられると、思い当たる人は1人や2人ではありません。というより、私自身も、かつて部下からどう思われていたのか正直不安になります。これが

らも、せめてハリネズミとかハイエナとかいわれないようにしなければと思っています。

平岡教授は、給与には多少なりとも不条理容赦料や理不尽忍耐料が含まれており、そうした中でも働き続けてこそ、人は成長すると述べています。

折角就職出来たのに数か月で辞めてしまう人がいます。若い内はやり直しがきくと思っているのかも知れませんが、私には、彼等はただ、社会という海に浮遊しているようにしか見えません。

社会人1年生の皆さんに申しあげたい事はただ一つ、今の表面的な現状だけを見て、早々と自分にも会社にも見切りをつけるような事だけは、止めて欲しいという事です。(塾頭：吉田 洋一)